

## 第16回教育相談全国研究集会報告

第16回教育相談全国研究集会は11月26日と27日に、日本教育会館で開催された。

全国各地で教育相談に従事されている相談員や現場の悩みに直面されている組合役員の方などが、熱心に参加された。1日目の午前中は、高森信子先生の「心の病への支援」－相手の気持ちをわかるために－というテーマで講演があった。

「あなたは私にとって大切な人」「よいコミュニケーションとは相手の気持ちがわかり、そして自分の気持ちも言えて、より生産的な関係になること」「思春期は親離れの葛藤の時期」など具体的な事例をもとにしながら、エネルギーに語ってくれた。

特に高森先生の経験をもとにした講演を聞いて、統合失調症の方などの生活のしづらさがすこし理解できた。また葉への見方やそういう方への対応のポイントなどもこれからの参考になると思った。

また、午後は二人一組になって具体的な事例でロールプレイを行った。実際場面になると大変難しいと思いながら参加した。たいへん実践的で役立つロールプレイだった。

(文責 徳永恭子)

### 第1分散会

テーマ：「相談室を充実させるために」

(司会 石井小夜子運営委員 22名参加)

初めに、自己紹介と各地域での工夫された相談活動、スキルアップのための取り組み、課題等が報告された。相談者の多岐にわたる要求に真剣に対応されている様子が実感できた。

続いて、司会者から提案された柱立て(相談員に関わること、相談時間、スーパーバイザーについて、財政問題等)をもとに討論を進めた。その一部の報告。どこの地域でも、相談員は退職者が中心で、高齢化が進む中、後継者の確保が課題になっている。福岡・大分から、退職者と現職者との交流の場を作り、相互理解を深め、協力し合う一助にしているという報告があった。また新潟から、県教研への参加、要請があれば支援員として小・中学校の現場に入り、関わりを深めていくという報告があった。相談員と現場の教職員が、常に接点を持っていることが、相談室を継続していく上で重要であるということが確認された。そしてこの12月、北海道で相談室が開設される。岩手の相談室から多くのアドバイスを受けてのスタートである。今日の論議も参考にしてぜひがんばっていただきたい。

終始熱心な討論で、有意義な分散会であった。

(文責 上田典男)

### 第2分散会

テーマ：「心の病への支援」

(司会 豊福明子運営委員 28名参加)

前日の全体会で講師を務めた高森信子氏の出席のもと、「心の病への支援」について話し合いを行い、一層の理解を深めた。最初に、参加者から各道府県の相談室へ寄せられる「心の病の相談」の多くの事例について報告がなされた。

報告では、教職員からの相談として、職場内での人間関係の悩み、管理職への要望・不満、学級経営、不登校生徒の指導の難しさ、保護者への対応等、また、既に休職している教職員からのメンタルヘルスに関する相談が多かったです。保護者からの相談は、子育て、非行、不登校、ひきこもりやDV等の相談が多かった。特に注目したいものは、不安感や孤独感を抱き続ける母親からの相談が多くなっているとの報告である。

高森講師からそれぞれの事例について、経験に基づいた適切なアドバイスと共に、相談者の状況に応じて、医療機関や保健センター等の行政機関、NPO 家族会等につなげることの大切さを話された。また、教育相談室の姿勢や役割は、「相談員のひと言で相談者の方向が変わる」ほど、重要であることの指摘を受け、相談員を勇気付けた。大変有意義な分散会であった。

(文責 服部嘉光)